

# きゅうり特報 No.3

2025年6月17日  
JA 中野市園芸課  
JA 中野市きゅうり部会

生育観察及び病害虫発生状況の確認を行い、防除間隔が空かない様に定期散布を実施して下さい。

## 露地作型

### 【6月中旬 防除】

使用薬剤	水	100L 当たり	月 日 ℓ
	展着剤(まくぴか)	30ml	
	ダニサラバフロアブル	100ml	
	プレバソンフロアブル	50ml	
	ジマンダイセン水和剤	166g	
散布目安量	300L/10a		
適用病害虫	ハダニ類、ウリノメイガ、ハモグリバエ類、 べと病、黒星病、炭そ病、疫病、褐斑病、つる枯病、斑点細菌病		

### 【6月下旬 防除】

使用薬剤	水	100L 当たり	月 日 ℓ
	展着剤(ハイトパワー)	10ml	
	ドーシャスフロアブル	100ml	
	ダントツ水溶剤	50g	
散布目安量	300L/10a		
適用病害虫	アブラムシ類、カメムシ類、ミナミキイロアザミウマ、コナジラミ類、 炭そ病、べと病、うどんこ病、褐斑病、黒星病		

### 【6月下旬～7月上旬 防除】

使用薬剤	水	100L 当たり	月 日 ℓ
	展着剤(まくぴか)	30ml	
	スピノエース顆粒水和剤	20g	
	ダイパワー水和剤	100g	
散布目安量	300L/10a		
適用病害虫	アザミウマ類、ハモグリバエ類、ウリノメイガ うどんこ病、褐斑病、炭そ病、べと病		

※6月は「べと病」に重点を置いた防除となっています。初発から蔓延までの期間が短いので散布間隔が空かない様実施してください。

つる枯病予防でトップジンMペーストを接ぎ木部を中心に地際から20cm塗布

- ①南部地区を中心に「ハスモンヨトウ」「オオタバコガ」の発生が見られます。  
虫が成長し、大きくなると農薬が効きずらくなります。定期防除が遅れないよう注意して下さい。

## ～ きゅうり3本仕立て ～

- 地際部が混んでしまうと風通しが悪く病害虫が発生しやすくなる。  
⇒地際から最低 30～40cm は空けて子づるを伸ばす。  
(今年はおおよそ 8～10 節くらい)

- 樹(親づる)が成長していない状態から果実を付けると、栄養が果実に使われて樹(親づる)の生育が停滞しやすくなる。  
⇒樹(親づる)の成長を促すため、主枝として伸ばす子づるよりも下に付いている実は、わき芽と同様に除去する。

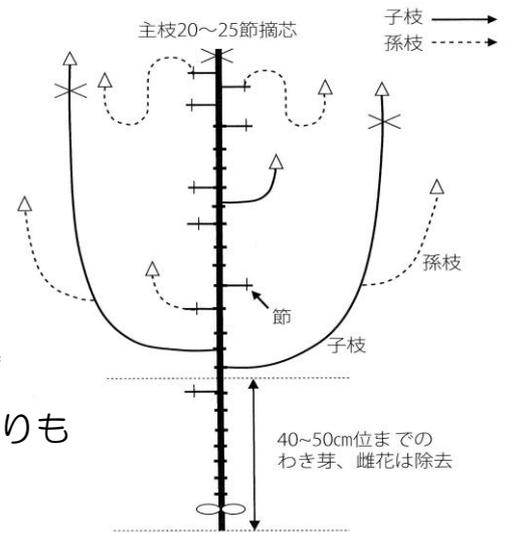


図 1

## ハウス作型

### 【 6月中旬 防除 】

散布薬剤	水	100L	月	日
	展着剤(まくぴか)	30ml		
	ダコニール 1000	100ml		
	スピノエース顆粒水和剤	20g		
散布量	300L/10a			ℓ
適用病害虫	アザミウマ類、ハモグリバエ類、ウリノメイガ 褐斑病、べと病、うどんこ病、つる枯病、炭そ病、菌核病、灰色かび病			

- ①日中気温が高く、換気が必要になります。しかしハウス内が乾燥すると曲がり果が発生しやすくなるので、通路散水などハウス内の湿度を上げるようにして下さい。

- ②アザミウマ類の発生に注意してください。

「6月中旬」防除を散布済みで、発生が見られる方は技術員にお問い合わせください。

お問い合わせ先：JA 中野市園芸課(佐藤・松井)  
 ・営農センター (0269)-23-3933  
 ・佐藤(携帯) 080-6932-1294  
 ・松井(携帯) 090-6397-1620